
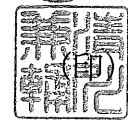



## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 <b>2859</b> 号	氏名	岩 永 謙
審査担当者	主 査    中 村 裕一郎  副主査    清 川 兼輔  副主査    梅 野 博 仁 		
主論文題目： <b>Accessory Mental Foramina and Nerves: Application to Periodontal, Periapical and Implant Surgery</b> (副オトガイ孔と副オトガイ神経：歯周外科，外科的歯内療法およびインプラント外科への応用)			

### 審査結果の要旨（意見）

系統解剖学実習において、しばしば見出される副オトガイ孔は、下顎骨オトガイ部のオトガイ孔近傍に存在する解剖学的破格の1つであるが、神経や血管に関する研究報告は少ない。そこで、本学系統解剖学実習のご遺体 63 体のオトガイ部を剖出し、20 個の副オトガイ孔について通過する神経や血管を詳細に観察、分析した。結果、副オトガイ孔を通過する神経、血管等が形態学的に明らかとなり、肉眼解剖学のみならず歯科領域においても、今後、インプラントを中心とした口腔外科学に寄与するところが大きいと考えられ、臨床解剖学的に極めて価値のある論文で、学位授与に値するものと判断する。

### 論文要旨

副オトガイ孔 (AMF) はオトガイ孔 (MF) の近傍に見出されることのある下顎骨の解剖学的破格の1つである。近年、画像診断技術の発達に伴い AMF の形態学的特徴が明らかになりつつあるが、AMF を通過する構造物 (神経や血管) についての研究は少なく、歯科臨床における外科的治療のためには、より詳細な解剖学的知見が必要と考えられる。本研究では、本学に供された御遺体の下顎骨を解剖学的小よび画像診断学的手法を用いて観察し、AMF および同部を通過する神経や血管について分析した。その結果、面積の大きな AMF は MF に近接し前方や上方に位置する傾向にあり、一方、面積の小さな AMF は MF から離れた位置で後上方に位置する傾向にあった。副オトガイ神経の分布領域は AMF と MF の位置関係に影響を受け、AMF が MF より前方であればオトガイ枝や内側下唇枝、上方であれば内外側下唇枝、後方であれば外側下唇枝や口角枝を分枝していた。本研究により AMF と同部を通過する神経、動脈の形態学的関連性が明らかとなった。この結果は、オトガイ領域の切開や剥離操作を含む術式の検討や術後の合併症予測において、非常に有用な解剖学的知見であると考えられる。